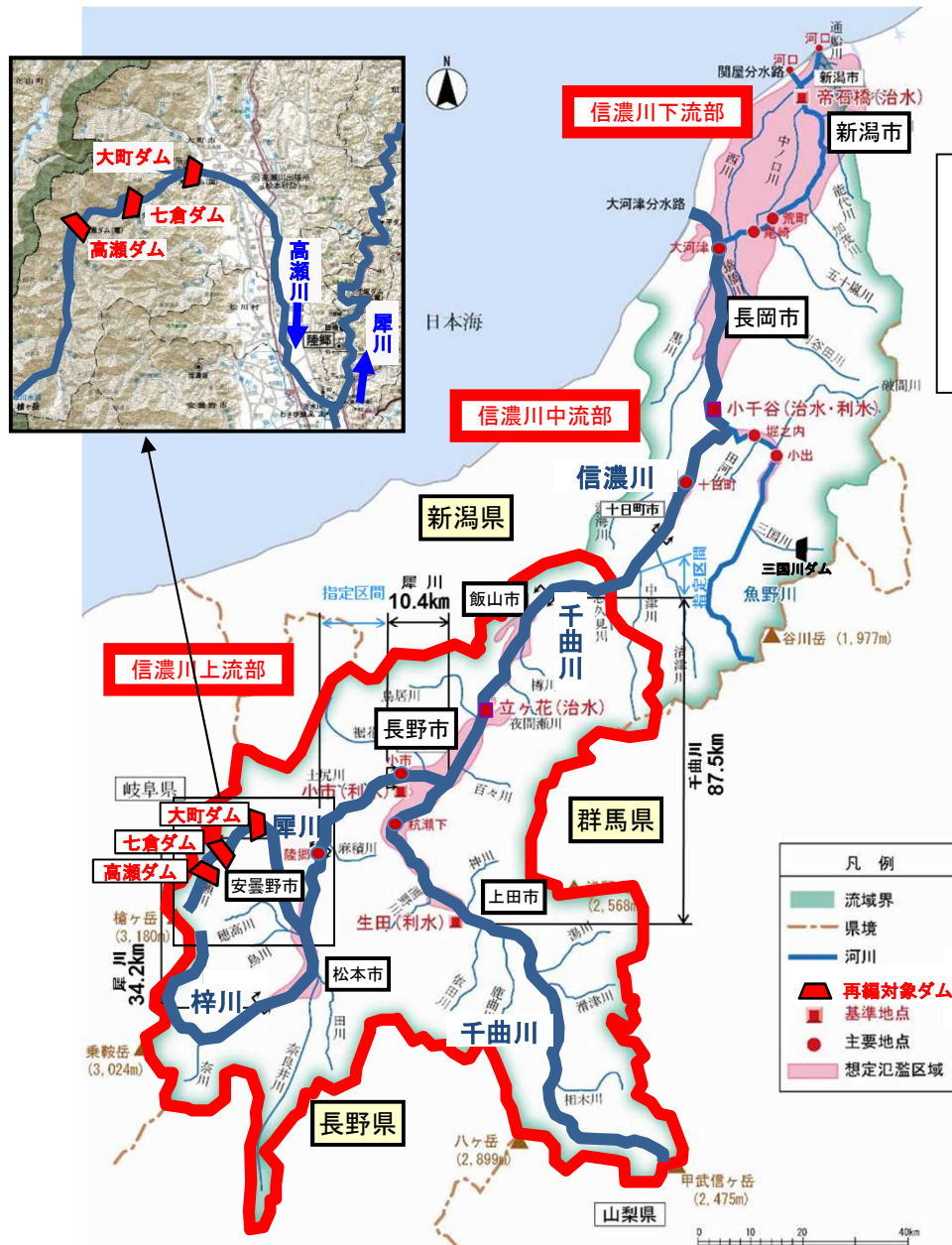


大町ダム等再編事業の概要

北陸地方整備局千曲川河川事務所

大町ダム等再編事業位置図



大町ダム(直轄)
 竣工年 昭和61年
 形式: 重力式
 コンクリートダム
 堤高: 107.0m
 堤頂長: 338.0m
 堤体積: 765千m³
 集水面積: 193.0km²



国土交通省北陸地方整備局 大町ダム管理所提供

七倉ダム(東京電力)
 竣工年 昭和54年
 形式: ロックフィルダム
 堤高: 125.0m
 堤頂長: 340.0m
 堤体積: 7,380千m³
 集水面積: 150.0km²



東京電力R.P.(株)パンフレットより

高瀬ダム(東京電力)
 竣工年 昭和54年
 形式: ロックフィルダム
 堤高: 176.0m
 堤頂長: 362.0m
 堤体積: 11,590千m³
 集水面積: 131.0km²



東京電力R.P.(株)パンフレットより

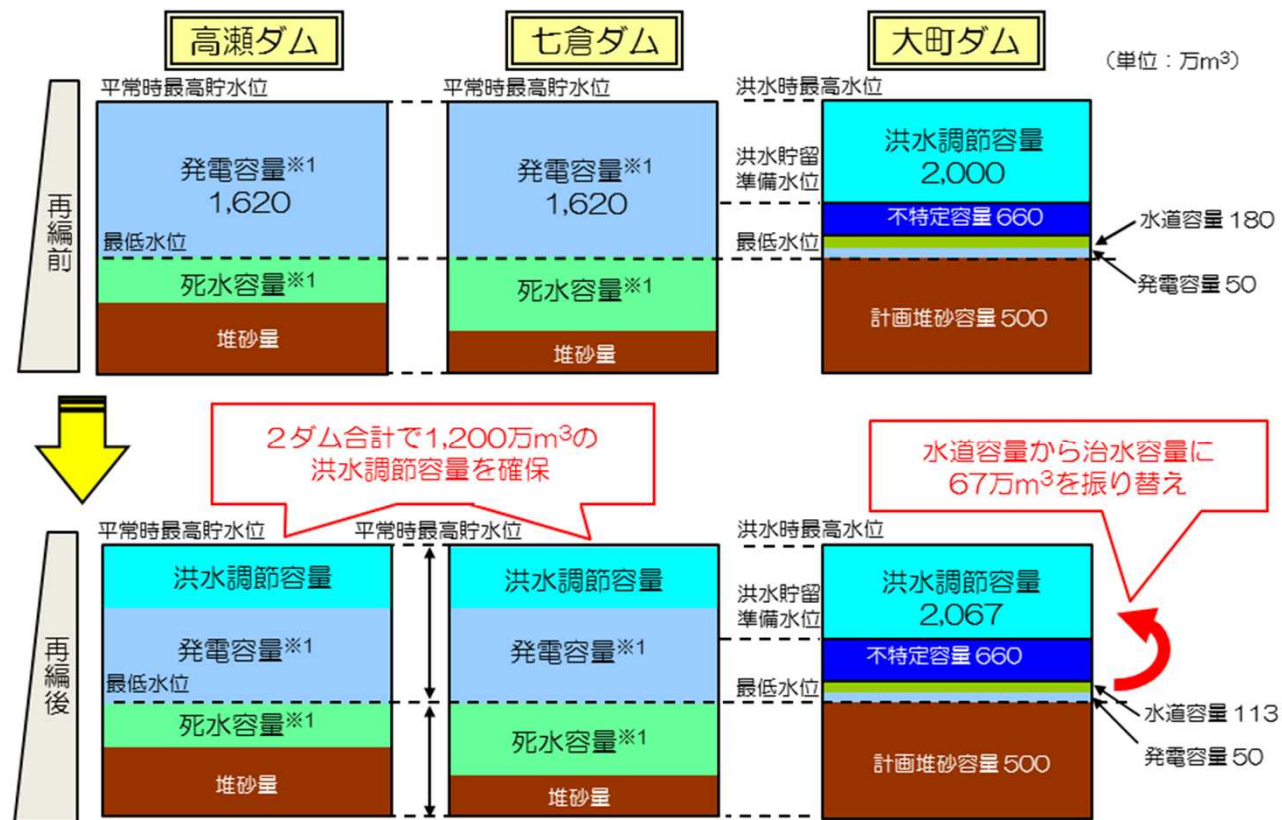
大町ダム等再編事業の内容（洪水調節）

○高瀬ダム、七倉ダムの発電容量のうち1,200万 m^3 、大町ダムの水道容量のうち67万 m^3 を洪水調節容量に振り替え、新たに1,267万 m^3 の洪水調節容量を確保します。これにより3ダム合わせ3,267万 m^3 （25mプール約54,500杯分）の洪水調節容量が確保されます。

○これらの洪水調節容量を用いて、高瀬川をはじめとする大町ダム下流の河川に対し、3ダム連携により最も効果的となる洪水調節方式を検討した結果、現在の大町ダムの操作方式（定率定量調節方式）を鍋底調節方式（バケットカット）へと変更することとします。

注）高瀬ダム、七倉ダム、大町ダムにおける洪水吐施設の改良等はありません。

大町ダム等再編事業 容量再編イメージ図



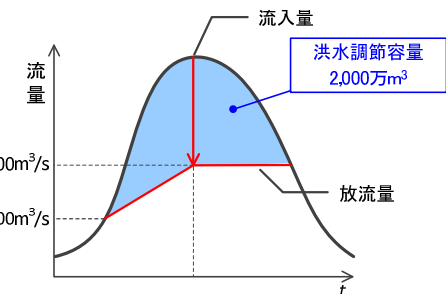
※1：将来の堆砂を許容

※2：図の堆砂量は再編直後のイメージ

現在の操作方式

大町ダム

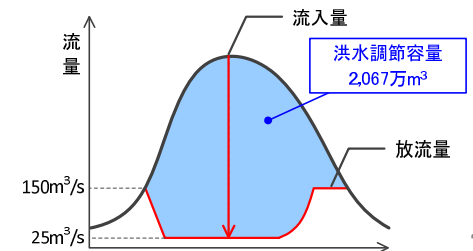
定率定量調節方式



新しい操作方式※

大町ダム

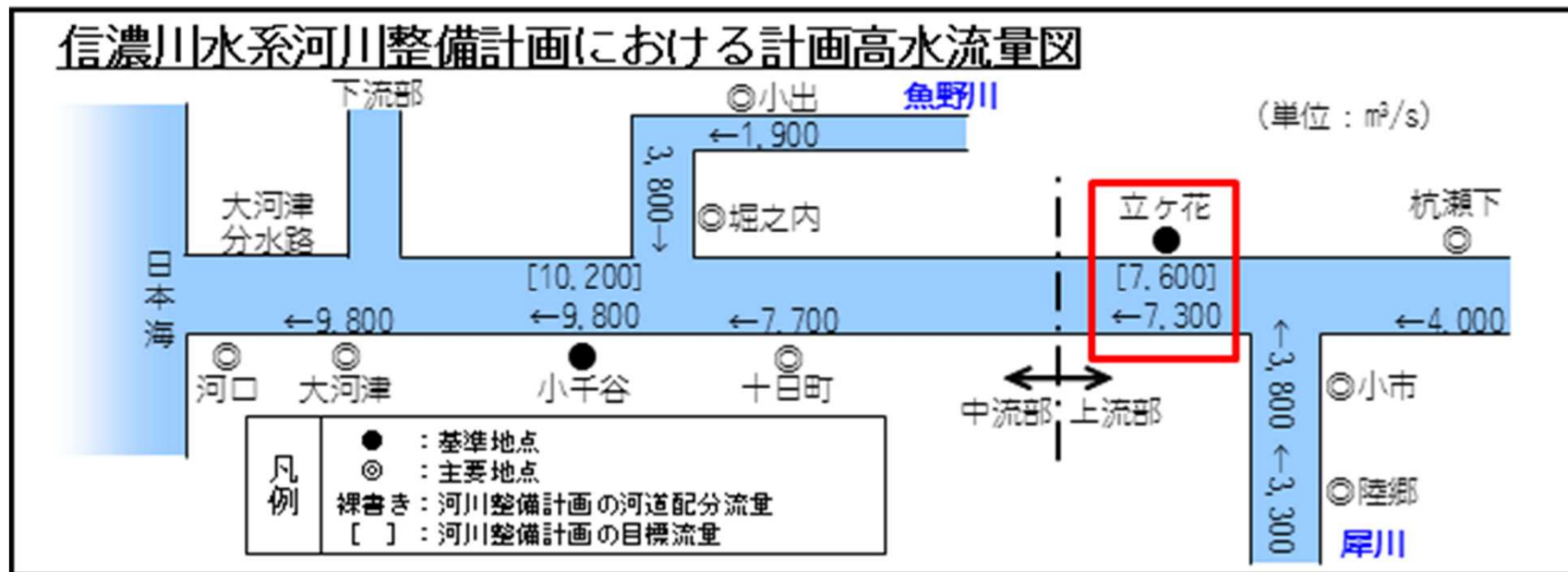
鍋底調節方式



※今後の詳細検討で変わる可能性があります。

大町ダム等再編事業の洪水調節効果

○高瀬ダム及び七倉ダム・大町ダムにおいて新たに洪水調節容量を確保することにより、昭和58年9月洪水と同規模の洪水が発生した場合、立ヶ花地点における流量7,600m³/sのうち既設ダムを併せた洪水調節後の流量は7,300m³/sになります。

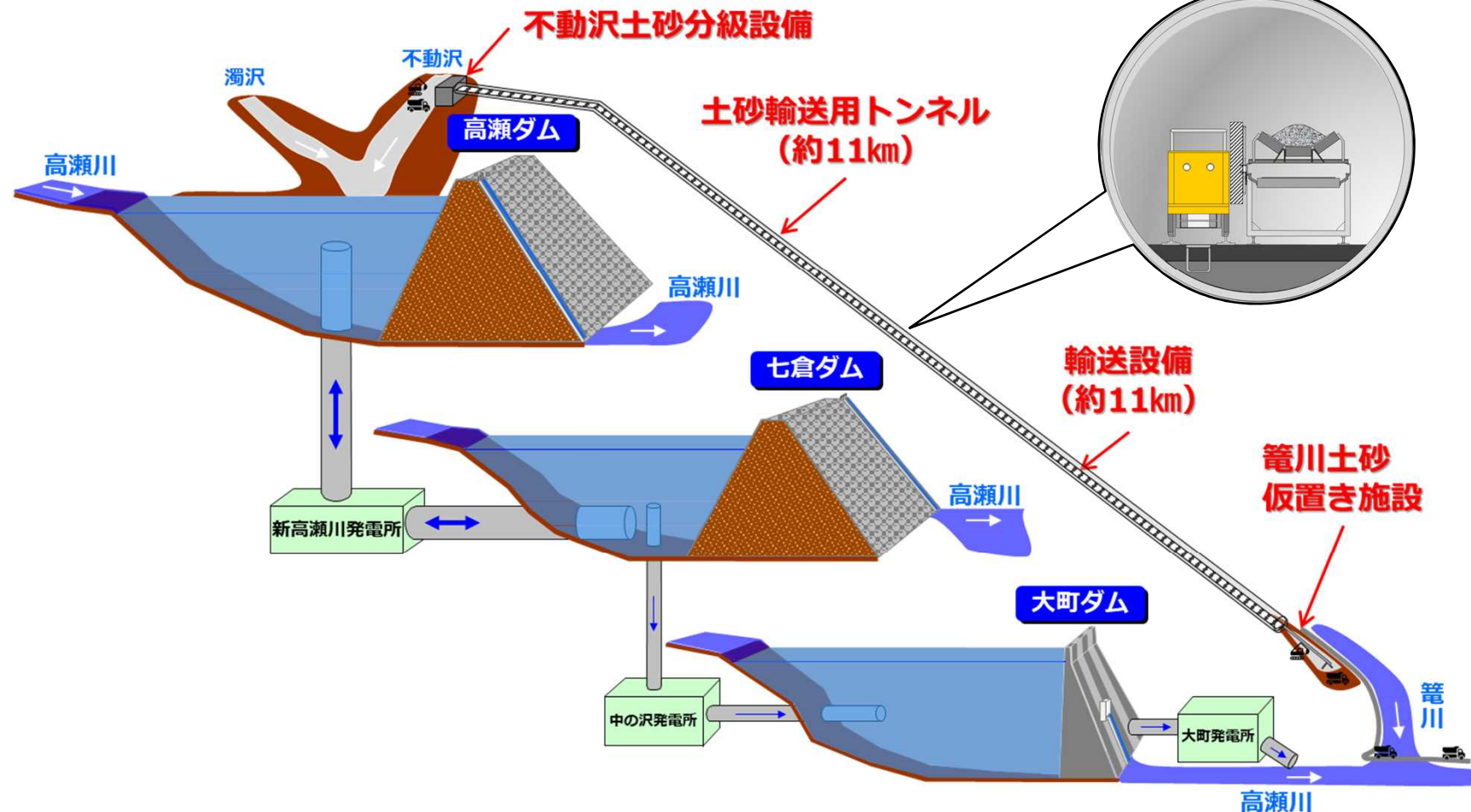


大町ダム等再編事業の事業内容（土砂対策）

○高瀬ダムの堆砂対策として、将来にわたって、確保した洪水調節容量と発電容量を維持することを目的として、令和11年度までに高瀬ダム上流から大町ダム下流までの間において土砂輸送用トンネル（約11km）を整備し、輸送設備（約11km）及び土砂分級設備、土砂仮置き施設の整備を行います。

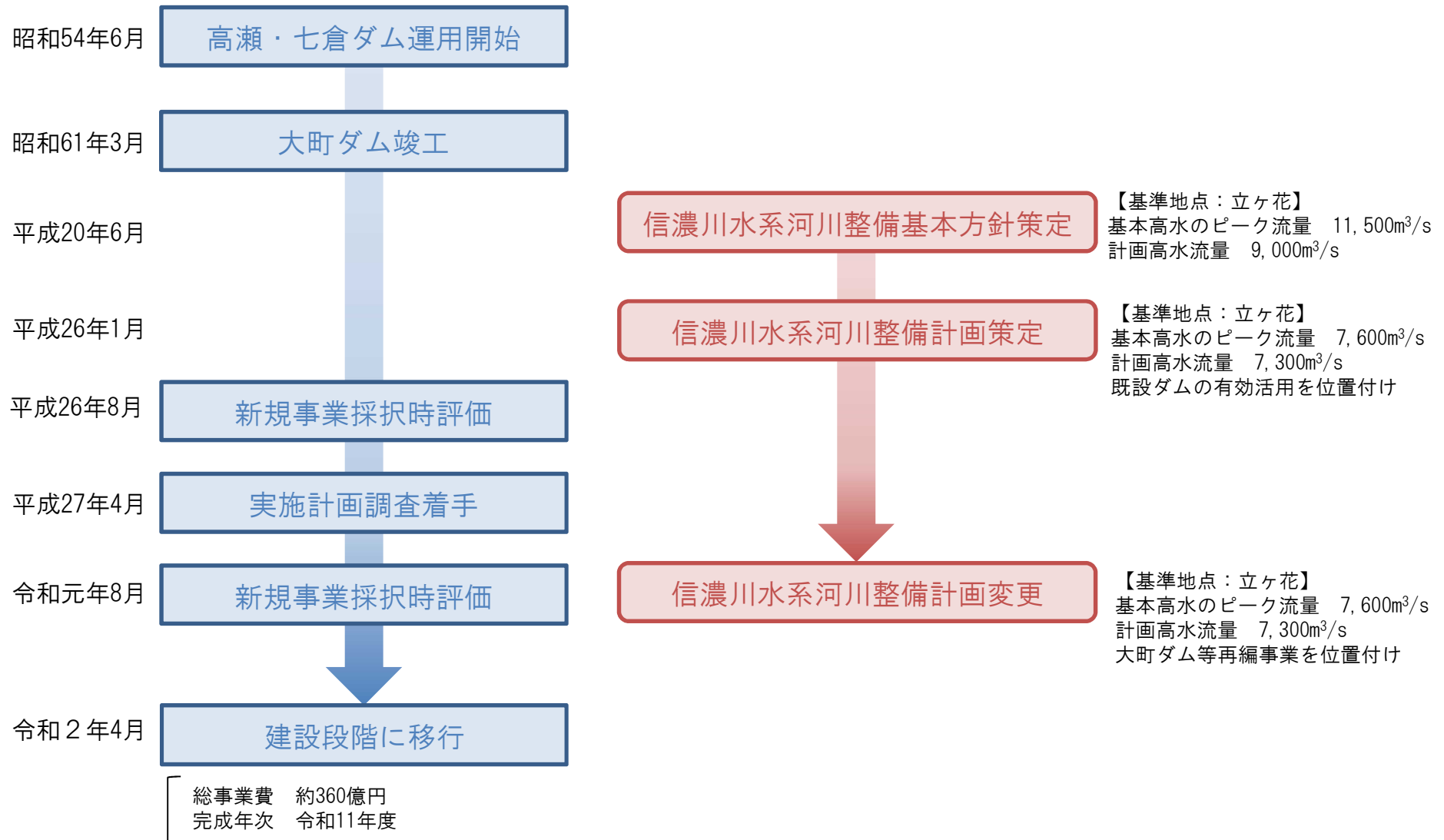
大町ダム等再編事業 土砂対策イメージ図

土砂輸送用トンネル・輸送設備

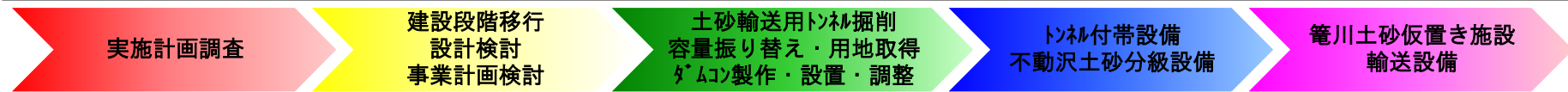


※設備イメージは今後変更される可能性があります

大町ダム等再編事業の経緯



大町ダム等再編事業 事業進捗状況



(令和3年3月末時点)

事業費	4. 8% (17. 3億円／360億円)				
測量地質 施設設計 事業計画	測量	地質	土砂対策施設設計	ダム運用計画検討	管理施設等設計
	環境・水理水文等調査				
用地取得（37ha） （内、国有地7ha） （内、民地30ha）	0%（0ha）				
容量振り替え※ （高瀬ダム・七倉ダム） （大町ダム）	0%				
ダム本体及び 関連工事	【洪水調節関係】				
	ダムコン製作 0%			設置・調整 0%	
	【土砂対策設備関係】				
	土砂輸送用トンネル掘削 0%	付帯設備 0%	不動沢土砂分級設備 0%	竈川土砂仮置き施設 0%	輸送設備 0%

※容量振り替えについては、所有者との協定等を締結して決定していくものであるため、本事業監理委員会での審議対象とはしないものとします。

大町ダム等再編事業の事業工程

○公表されている緊急治水対策プロジェクトの事業工程にて、大町ダム等再編事業は、令和7年度より本運用開始としています。

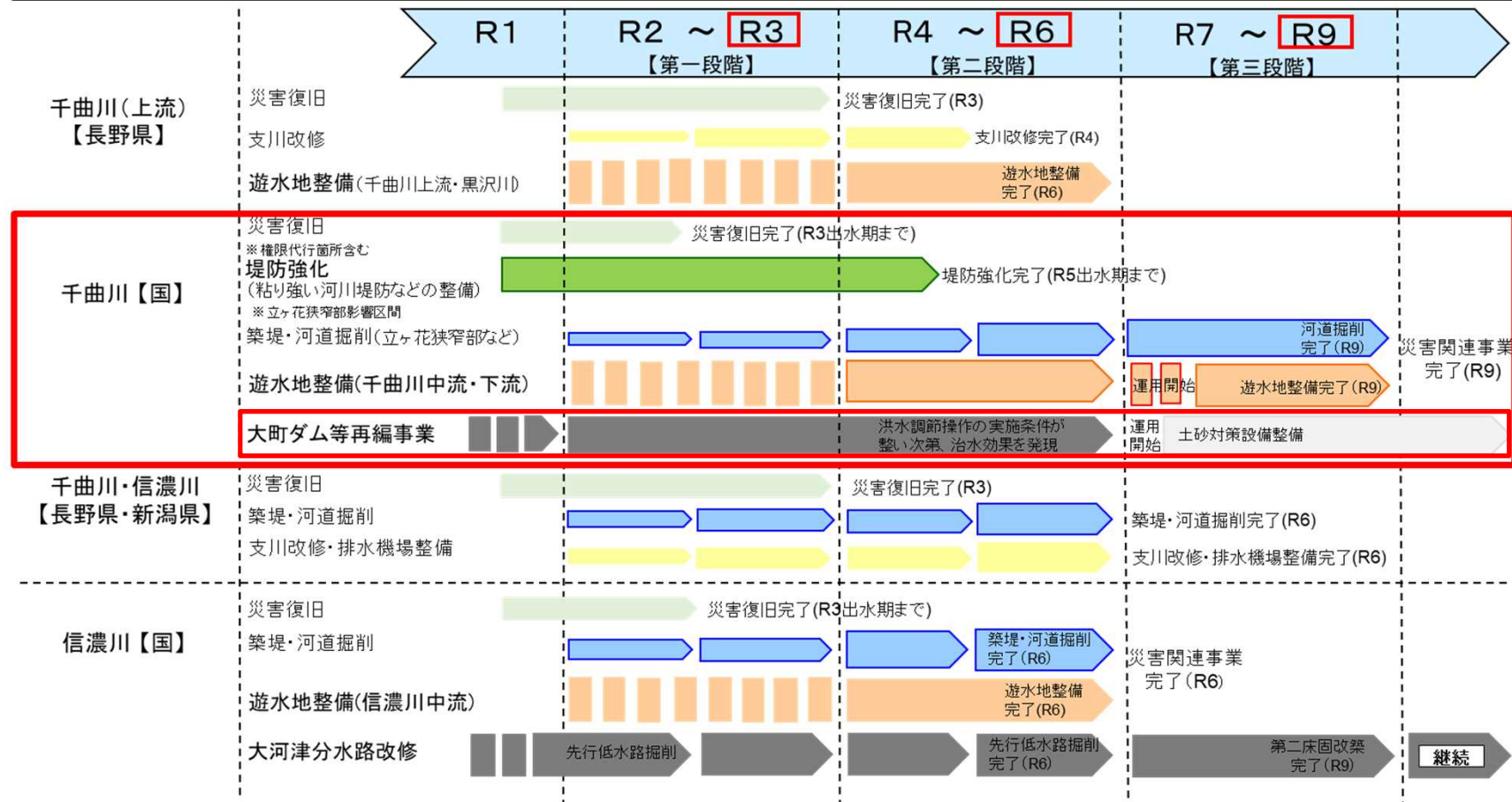
～みんなでつなぐしなのの川～

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

ロードマップ

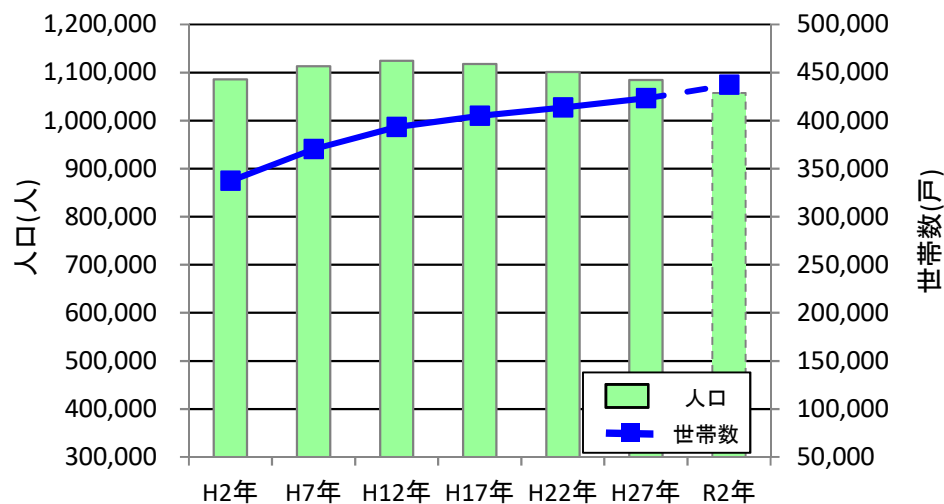
「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進

- 【第一段階(復旧)】 災害復旧を令和3年度までに完了(国(権限代行含む)は令和3年出水期まで、県は令和3年度)。並びに大河津分水路などの下流域の整備に応じた河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を順次実施
- 【第二段階(復興)】 改良復旧である堤防強化(粘り強い河川堤防構造など)や遊水地、大町ダム等再編事業(容量再編)を完了
- 【第三段階(復興)】 遊水地、河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を令和9年度完了



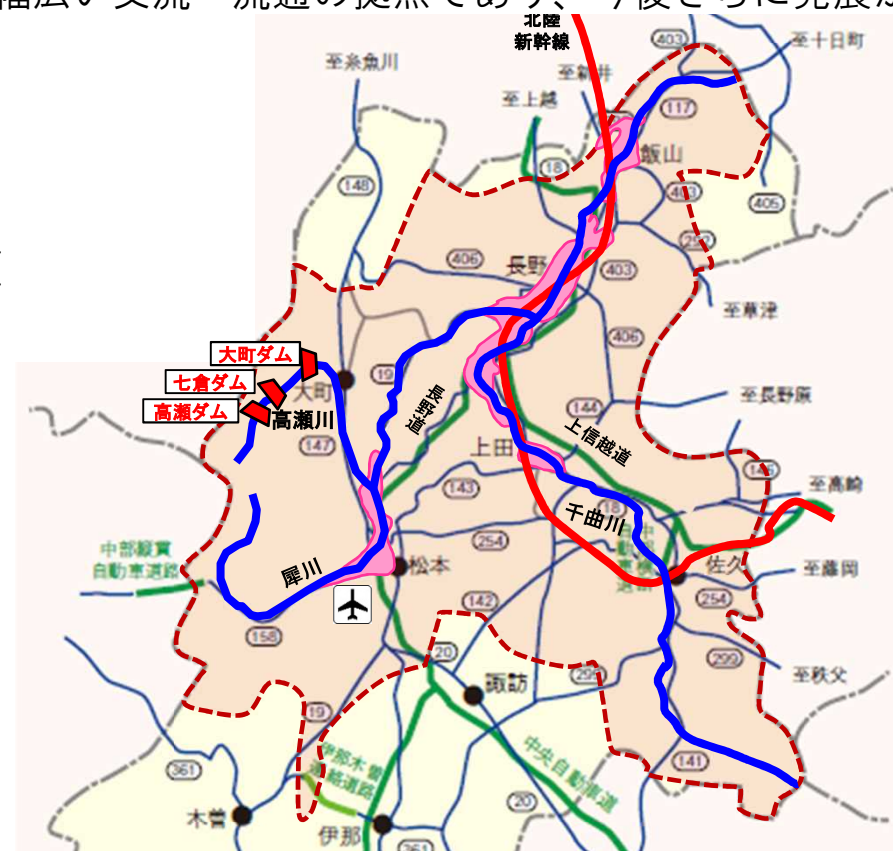
事業を巡る社会情勢等

- 千曲川流域の想定氾濫区域関連市町村（飯山市、中野市、長野市、須坂市、千曲市、上田市、生坂村、安曇野市、松本市、小布施町、坂城町、野沢温泉村、木島平村）の人口は110万人程度で推移しており、大幅な増減は見られない。
- 千曲川流域では、北陸新幹線、長野自動車道、上信越自動車道などの高速交通機関をはじめとした交通基盤整備により、広域交通体系の結節点としての拠点性、地域優位性を持ち、県都長野市をはじめ、松本市や上田市等の地方都市を有している。また、長野市には北陸新幹線の車両基地があり、令和元年東日本台風では新幹線線の車両10編成（1編成12両）が浸水したため、北陸新幹線のダイヤは長期間にわたり影響が出た。
- このように千曲川流域は、人、経済、文化等の幅広い交流・流通の拠点であり、今後さらに発展が見込まれる重要な地域である。



※H2年～H27年までは国勢調査結果、R2年は長野県HP（長野県毎月人口異動調査）で公表されている数値（R2.12.1時点）から整理

図 想定氾濫区域 関連市町村人口推移



— : 河川 - - - : 流域（長野県内） ■ : 想定氾濫区域